





歐西紀行卷之四

晴候氏日記

十七日彼れと静よしと舟行こと二百三十五  
 里北緯六度四十一分東經百六度五十一分  
 十八日朝をれと暁らぬより西へ向ふと  
 つきむきうぬえたり出れハ天竺よりきり  
 一と去るれよりと暁らたは俄よ舟の上より  
 さきききしきりよ水をとす持りきり火  
 をけし舟の役人より水夫よ以てるまを以つ  
 きりよとよりいよさき友をり大砲小砲

大砲小砲

晴候氏日記



ともし玉をこめ燭燭をもちあひり絲を絞  
おあらし指原を巻ハ二百余人の異人舟の上  
に立あらしひあま共ハ何事とやとたの絲を  
一人あまた其言者なくと明あやしくあ  
るよ醫者一人いたきたりぬるあこせよと  
収束せハ舟の上をきいてハる明物未明  
戦争をしまるへといふけきハ人と打おと  
ろきそれハいふある故とやと子細を尋ぬる  
よ香港の新守と云英吉利西とあめりり伴あ

しき子もしまり中國ハ戦争はるよと明物之  
ニカホールルの隣とハ津せハかあらしあめり  
の法舟のこよ所へといふそれと出逢ぬ  
きハかあらし戦争をしまるへと今其利をき  
るありといふそれハいつきも覚悟を定め酒  
をのこけしそ刀と油をぬえハ中倍の勇を振  
つるき若刀と無物とりのく細らみあ  
とちきいていふとゆとと程あつ明方よと  
ンカホールルの隣と知りあると幸ハとあめり



の結軍舟ハ一つもな〜と船將より始めを  
いつせぬうちよるこみいゝとさ道具もわ〜の  
とつけ五時よ入津せりま子よあやう〜り〜  
ま〜ち前後よもあ〜り〜

横雲とき〜ハそりよ消行をぬ〜る  
お〜ハ彼風をな〜くハ船由と〜と二百二  
十三里北緯三交四十二分東経百四交三十四  
分〜と此とぬ〜と〜と抑〜の淡ハ麻六甲  
の海口〜と東京交〜と〜と尚時を以きり

まの所領よと交易港也此位ハ緯線赤道の北  
一交よ起り長さ二十四里巖石峨〜と〜とい  
〜とぬ〜と山少〜と海崖と椰子の木桧柳等  
木を〜り〜と〜と四時き〜と〜と落葉の時ぬ  
く舟候を四季ともよあつと新設の地方より  
ま〜と〜と〜と抵八十交より九十交を去るの  
岸よ以て秋ハ是よあつと〜と〜と〜と  
毎日一交つと〜と故為民も此道よ〜とあつ  
さを志の天地自造の如〜と〜と〜とこれ故

大正...



老人と雖も一生霜雪を知らず則ち童代とハ  
 此の地のこと也西北の海岸ハ平地とて東  
 南ハ山水の景をよろしと種とめつらしき学  
 末阿り五穀を在抵一季と云なつてさるる  
 以ハ漁師舟人の休養と注居る者ハ皆椰子  
 の木を以テ水中に竅をつくり出し椰子の葉  
 とて屋根をふく男女とも色黒くゆるる髪  
 ちと建糸靴布をもとてらせかゝにまとひ  
 画にかきく糸産の如くまこと白き布をいへ

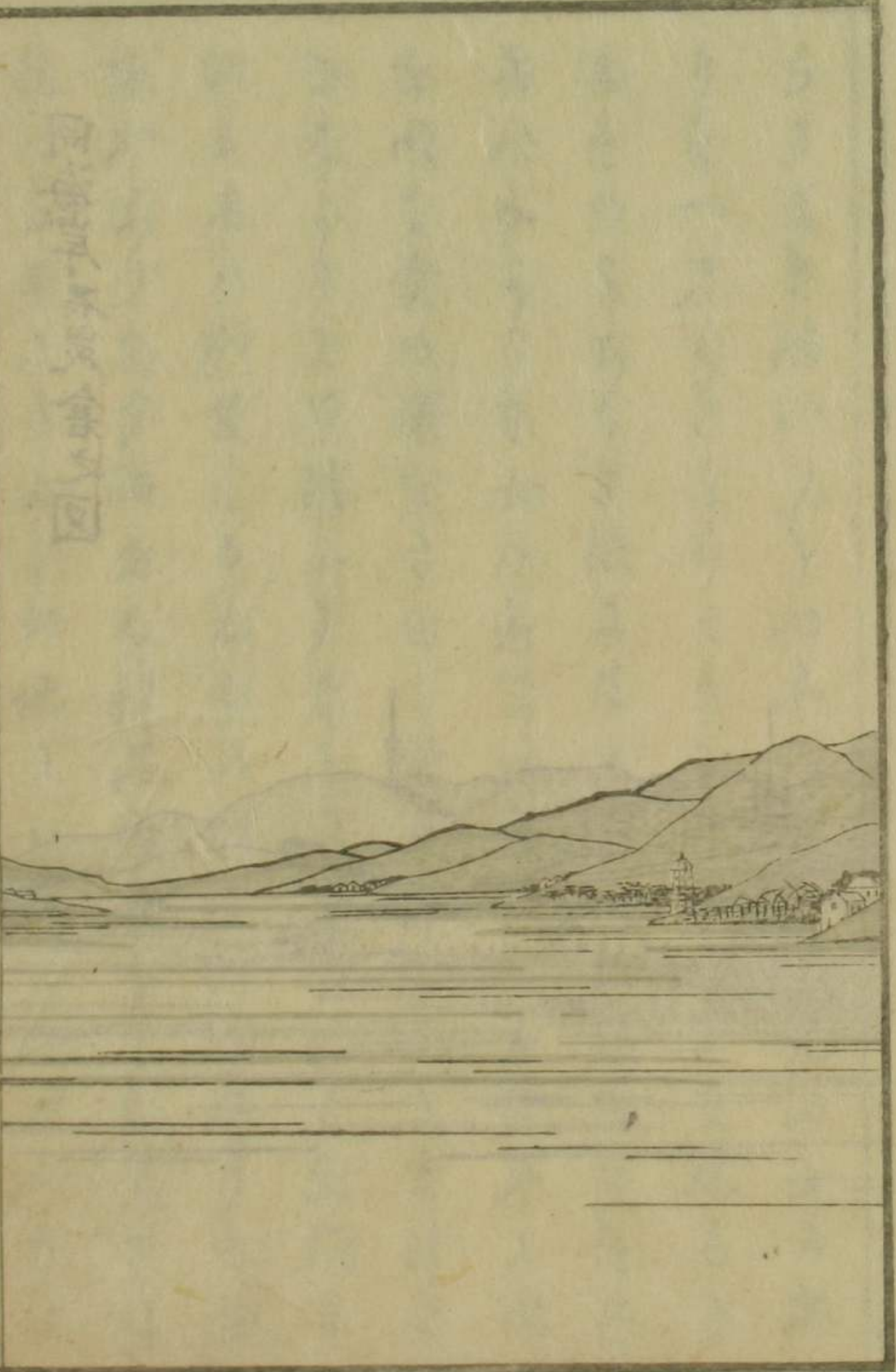
椰子木ヲ以テ造ル所  
漢家之図



土人暑ヲ水 中ニ凌クニ因



新嘉坡港基場並  
椰林繁茂之図



西紀行 卷四



同海岸石炭倉之図



らよまき浦い〜つふりりぬえ見ゆるぬあ  
りまつとまこ〜ちこりよと只布よと襦きり  
とまのとあり子供よと必は襦きをきぬ  
者ハあうりき女ハ老翁姑是家かと皆耳と院  
せぬと金の環をきある髪ハう〜ろよさけと  
るをこりよとて孩ふまを〜又男を徳と宗門と  
いふ者ハ剃髪しりから法既と頭巾やうの物  
をかふり朝夕西方を拜み經文をよかふと法  
括ハ白布人のぬ〜此地よハ常々四万人のい



ちと人のそあへらるよ一軒の人別者九家  
 人家作ハ二千軒と明いきりきの家作とて  
 園の人おれを借りて園をきる市中半分ハ支  
 那商人よと交易日々盛んなり此地の産物ハ  
 胡椒を第一と次はへと何よも椰子の木を用  
 其木ハ長さ二丈餘り皆一本立よと枝ナリ椽  
 欄の末よ似こり葉ハ一葉の上よ何り葉は長  
 さ七八尺何り実ハ大きき瓜の如き木よある  
 時よ青く熟をれを核の肉よ水何りおれを椰

衆とゆふ土人取とのむ実ハ色白くくそ甘く  
 在こく若ふ味あり在きの實の味よ水こり  
 此水を用て酒を造味あ備く核ハ細くうく  
 以りくの器物よ作る所の皮ハ椽欄の毛は  
 ぬえ繩よふふ葉ハ舟の帆を織又ハむくろ扇  
 笠取巾笠其外種と結手遊物をつくる者核は  
 よ木のふくを搗て紙をきく大木ハ柱よも用  
 少一つやくと用よ多しぬをく此ハ蘇肉豆  
 冠梅柳草麻子油孩兒茶等も産是皆歐羅巴



州よりなきりのかれを常としてこれを法蘭元交易

甲九日快晴西洋十二字の上陸をなす其人並  
法蘭元以下諸役人都合十餘人九時交代  
せり其時築く船ハ午交の舟に於ておさ  
し形ハ四角の舟に九本をとり一揃に  
長さハ一丈七八尺人四五人の長一きを今  
十餘人を乗せられハお毫うをとり以るや  
うて船よりハ錢を採とりて舟をうこりて

かといゆ一皆く船を立めく為言言語も通  
せはたし舟を由る交は水波立を衣服をぬ  
らしやれハえつらん舟たるとた  
ましく櫓を水の中は落しけはハ舟いよ  
まをりてまはれまはれやむを元錢をやりや  
し被の蒙り是あり此地土人の俗ありき  
りおきよき抵着り是あり北海岸をムラ井  
といふ岸より一里をのり法蘭椰子の樹あり  
しきと法蘭元の人を皆く驚かすなり



あふふとゆきしり柴肉の土人いふいふとあつち  
無きよて歩留絲ちかあらま虎豹あともうハ  
ううといふそれハ何故ととふ又あつち猛獣  
大蛇あとのまむとまらふれハねハ人撃を吹  
て出たる敵土地のりのまともねハ無きよて  
通るとそれよりいづれも無きよて行出ると  
丁條よとちるうむうふ又燈火の目えられハ  
う色しとあひひあり出れハあつち旅者より  
車を馬よひのをと追よ来るをり其車あつち

ち四ツよとる二足よひのま馬をいづれあ者一  
人車のあよあると人結りの車あり車結左右  
二硝子の燈籠をつけ道もあてあうる一此車  
よ結りてゆくと教町よよひ日よに自教よと  
学末結露よ月の光め、やきてかゝるの記の  
りとおまちり玉をちらしとるあめしうとを  
くよ海邊あり帯をひとかくとく蟲の香煙結  
こ急かと持寄結心をあよとく希道ハ  
たのあつちいそと車にくつとむし者そ



へそ噂のへの夕を色

年月日いりよぬるとも乾むしあ又あ  
はよまうりり云云船中のつらきもとき  
きりおきより橋を弓あはぬ側町屋を  
人お敷子軒あり男女皆ききみさる軒あり

妻あらしるお半はあつさよ毎へ兼て志ん  
のちうるれ終虫を鳴ムラ井よりあまま  
きり色色三里よしを様飯よひりりハ  
よ十一時をきくよつと枕よつらんよ三階を

水作り蒸ふよひと一問よふし水床を  
らへ校帳をさげ机の上よわしを並其を  
よ羽草紙を並硝子の瓶よ水をいりあり  
ハうのひをつうひをいりふぬたり又藤  
のトよ一つのつねありまきハ小箱の器  
藤室ハ一層毎よこの通りをり箱もあ  
えあり小籠をとおみ人衣服ハ以きり  
ハ袖のそあかき毛の織物をり既ハ  
毛皮よそのりよ糸物をのふる是ハ則ち



の赤梅廻りよふりのこ  
 坊の物起出と旅館の園中よ歩ききうりあは  
 ひ白うり西瓜ぬとよと熟くぬ里採とまろふ  
 よ味のとりとよろくり亭の西瓜と異ぬら  
 又めつらしき草木ありゆつさよ花さうりこ  
 一ツこつ花をとりとわさよとと里安お日  
 本よあき菓種のみかを安定を指しり今盛  
 よありし相おそおしきよ時日本尾お若郡  
 小聖村出生百姓の言よよふ者よろくり隣よ来

女人之図



女  
 人  
 之  
 図



男鬼之圖



日日本人之面會致交于一世之世也ハ以ハ  
 事年七才の時漂流しを力リホルニヤ上野  
 同船の者十九人ありし大抵死亡しを其の  
 あり生残りあるもの一人乙吉一人ハ今あり  
 あり結福物といふ所ニ住居するより乙吉ハ  
 日本へ帰り交心やまきし先達を以きりて  
 結船に乘込日本薩摩沖まを来りしるる地  
 より大砲を打つ事とては幾登といふことハ



けさハあやましく越よ里のこさきよよりそ  
やむを先を支那をきくそさきうへし上海と  
いふ所よりわりのいよ其地は海島多ありき後  
いきりきの支配あり軍よ以ててて都合  
中四五吊時ハ上海にて河舟の船頭をいそあ  
りまひとくるよ其妻を其所の出生よ其今  
子供三人あり此岸上海の地以くさ始りこれ  
ハあれをさきんとめ痛奪保答と稱しこころ  
十日程歩よ来りし幸ハ本人此地よ上海せ

ると少長よた元はこころ多ハ参りとりと云  
よつと上海道の括子をとりよ乙吉曰南時長  
毛賊といふ者上海を攻る其元凡二十万唐人  
の城をさる者ハ總よ三五千五よ甲冑を用るこ  
とあるよ西洋造の具を取りませ鉄砲斗り  
の軍あり大炮ハ多し少く五よあり城よ押よ  
せよこころふ者毛賊かこころ清人をとりこ  
よせハ必そ結頼し燒宇を押し降る志ありと  
清少へよ始ありひそむきを信よ通るよとあり



とを以て一をむく者ハ唐人其類の焼くを兄  
と却て疑を生し官よりれをあらせ給し依て  
一夜長毛は降る者ハまて信し福る予たり長  
毛ハ東西南北の王をきて其勢白く感んたり  
信ハまきし威豊帝爾ハを子載淳位よりき同  
信と改元あり然れとも奸臣上よりあり忠臣下  
は埋れ法役人ら賄賂を以て官よりわたり忠  
義を以て長れ君父を後よりたき名利を先より  
するはともありしゆをたれハ人々日々より離れ遂

は逃去りの多きいき利はふらん長毛は加勢を  
とみやりし上信は入者凡二百余千人いき  
り走らん長毛八百五十人の言を出し長毛は  
云ふ子人とも我ハ窮時のまよき長毛五百人を殺  
し跡りハまねけ去ぬ英佛のうきよは六きを  
を受る長毛は廿五六人と以て其後ハ英佛の  
海兵は加勢を去るともなま長毛を命を  
るともありし四方を備ふ計りとそ上信も降  
ハ今交易盛ん成しりハ其味も兄よと取出し











新嘉坡 旌餽眺望之図

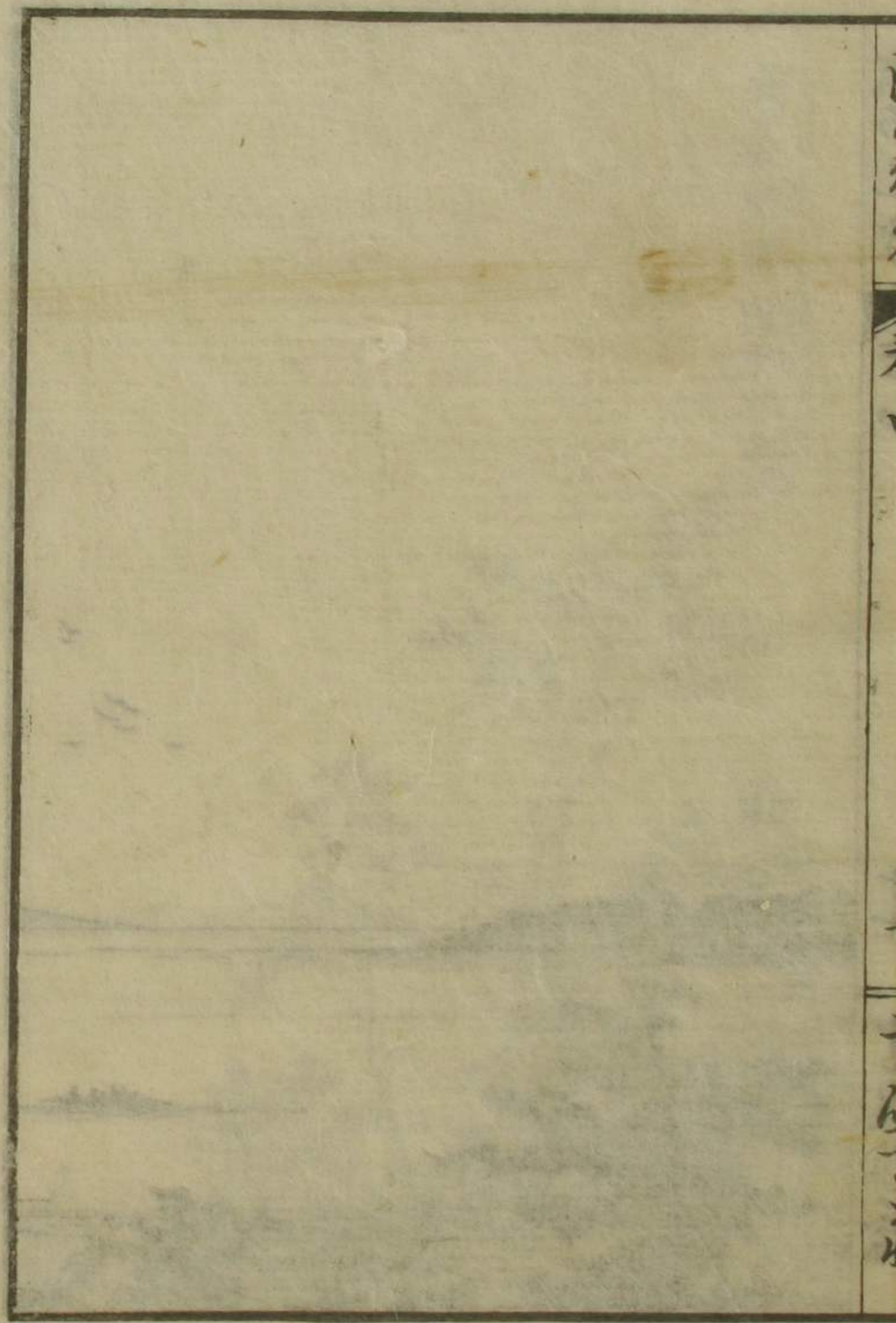


十七 新嘉坡





西... 北... 東... 南...



操の物語... 船の... 北緯... 東経...

北緯四十四分東経九十八分... 船の... 北緯... 東経...

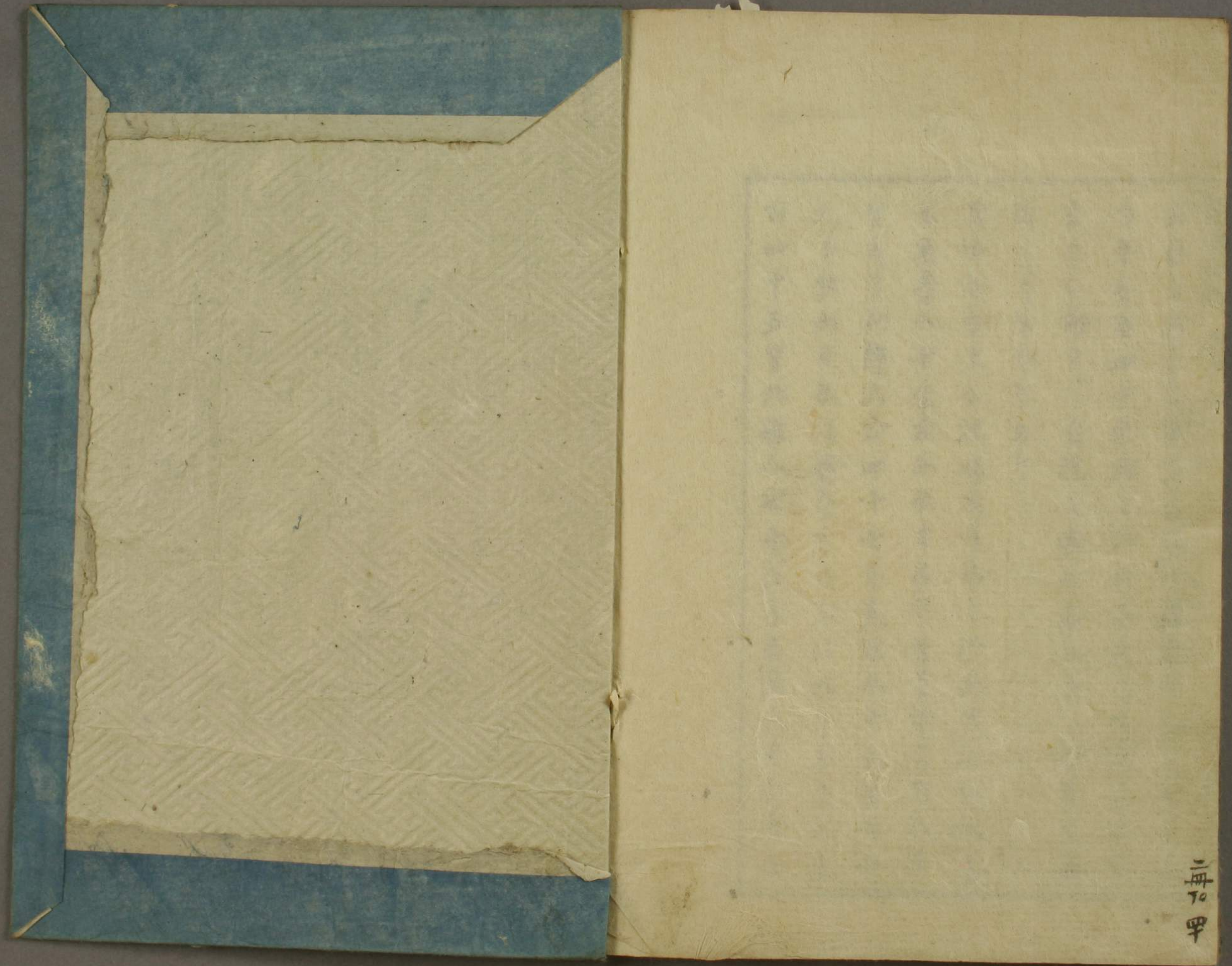
西... 北... 東... 南...



暑季にあつる者多し所り、蕪季のわづりあ  
つさる百四十余交といふ水まよも俄よめを  
まよし、例せし者数人あり、あれといつても療  
治しざるをりあり

此日、帝ふも快晴あり、少く風ありといへ  
も暑季八十余交、舟ゆえあつるや、百八十  
里あり、北緯六交、四十七系、東緯九中、六交、二十  
九系、六日、快晴、暑季きのふ、注ぬし、舟り出と  
百四十五里、北緯八交、十二系、東緯八中、四交、こ





二  
每  
石  
甲



